

GOKURAKUJI DAYORI
極楽寺だより
2022(令和4)年 8月号



発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派）〒759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎0837-43-0625

盆法会

いのちを尊ぶ法要

魚法会

全戦争犠牲者追悼法要

中止のお知らせ

再び、コロナ禍が拡大しています。

残念ではありますが、盆法会は中止といたします。

八月十五日（月）九時より、お寺の者だけでお勤めいたします。



平和の鐘を撞きましよう

八月十五日（月）

法要終了後

九時三十分頃から

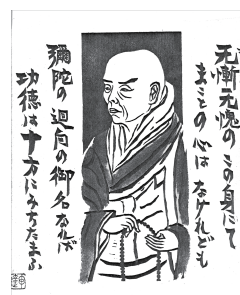
平和への願いを、響き渡る鐘の音に重ね、いのちを尊ぶ生き方の一歩としたい。そんな願いを込めて鐘を撞きます。

法要後、お寺の者だけで撞く予定ですが、ご希望の方は必ずマスクをつけて、九時半頃に本堂前にお集りください。どなたでも、撞くことができます。

※ お盆期間中、納骨堂にお参りされる方。ぜひ本堂にもお参りください。懐かしい写真も掲示してあります。

三隅地区親鸞聖人鑽仰会法座も、中止となりました

例年九月に勤められる三隅地区の親鸞聖人鑽仰会法会も、今年もコロナ禍の状況を考慮し、中止することになりました。



ゴキョウ ヨウゴカイ

お寺の
業界用語

ぼん 梵鐘 しょう



釣鐘つりがねのことです。時計が身近みぢかでなかった昔は、朝夕あさゆうの時間を告げ
るものとして、人々の生活に大きな役割やくわりを果たはしてきました。但し
それは、あくまでも二次にじてき的な役割。梵鐘ぼんしょうの「梵」とはインドのサン
スクリット語の Brahma の音訳で、清浄・清らかという意味です。か
ら、あたりの空気を清め、人々に功德くどくをもたらすものとしてお寺に
鐘せつちが設置され、撞つかれてきたのです。

梵鐘を撞くと、音だけではなく響ひびきが身体からだに伝わつたってきます。そ
して、そこに余韻よゐんがあることが感じられます。その響きや余韻は、
心を鎮しずめなければ味あじわえません。近頃とかいの都会では、「お寺の鐘かねがう
るさい」という苦情くじょうが寄せられることもあるようですが、そのよう
な精神状態せいしんじょうたいでは感じ取ることができないものです。そして心が鎮しずま
ると、世界の見え方や感じ方が変わってきます。それはとても大き

な功德くどくだと、私には思えるのです。毎年、大晦日おおみそかに撞つく「除夜の
鐘かね」も、「百八の煩惱ぼんのうを払はらうため」と言われていますが、煩わづらい悩なやむ
ものを追いかけて続けている私の姿を、心を鎮あきめることで明らかにし、
「自分の生き方を見つめ直すなおご縁えん」としていただいた方が、より豊ゆた
かな新年しんねんを迎むかえることができると思うのですが、いかがでしょう。

また梵鐘ぼんしょうには、法座ほうざが始はじまることを知らせるという役割やくわりもありま
す。「ごおーん」と鳴り響ひびく鐘かねの音を、「阿弥陀様あみださまから与あたえられてい
る慈いつくしみと恵めぐみを聞きけよ。ご
恩おん」を聞く法座ほうざが始はじまるぞ」と
いう私への呼び声こゑだと受け
止め、生活に追われる中に足
を止め、心を鎮しずめて、お寺に
参まる。そんな生活を送られ
た先輩方せんぱいがたもおられたのです。



「ごおーん」と「ご恩」って、オヤジギャグみたいだと思われ
る人もあるかもしれませんが、そんな受け止めを小ばかにする
感覚よりも、「すべての事柄は、この私を導き育てるはたらきだ」と
受け止める感性の方が、よっぽど豊かだと思います。

梵鐘には、悲しい歴史もあります。日中戦争から太平洋戦争
にかけて、当時の政府は資源不足を補うために、金属類
の回収を始めました。お寺の梵鐘もその対象となり、
浄土真宗本願寺派の寺院では85%のお寺が供出。戻ってきたの
はわずか5%。極楽寺の梵鐘も供出され、戻ることはありません
でした。現在の梵鐘は、前住職の住職継職法要の際に、
記念事業として新しくかけられたもの。心を鎮めるための鐘が、
人を殺す兵器へと変えられる。とても悲しいことだと思います。
2017年より、極楽寺では八月十五日の盆法座の後、平和
の鐘を撞くご縁を始めました。鐘の響きと余韻を味わう中で心
を鎮め、本当に求めるべきものを、仏法を通して想う。ロシア
のウクライナ侵攻以来、日本の世論も過激な方向に傾きつつあ
る今だからこそ、意味あるものだと思います。■

◇ 平日の午前6時（通年）

◇ 各法座の30分前（法座を知らせる集会鐘として）

◇ 8月15日 平和を願う鐘 盆法座（いのちを尊ぶ法要）後

◇ 12月31日 除夜の鐘 午後11時45分頃から

※『平和を願う鐘』と『除夜の鐘』は、どなたでも撞くことができます。



1973（昭和48）年、新しい梵鐘を、ご門徒の手によっ
て吊り上げました。梵鐘は、豊原・河内信雄さんと土手
内山芳二さんにご寄付いただきました。

月々の言葉

Monthly Words



キミたちは戦争に

関心はないだろうが

戦争はキミたちに

関心がある

トロッキー



極楽寺指示伝道

8月の言葉

私たちの社会は、様々な問題を抱えています。たとえば格差による貧困、人種性別や障害による差別、平和、環境問題…。また、これまでの慣習や価値観から、問題として認識されないものも数多くあります。それらは「社会問題」という言い方で一括りにされませんが、当事者にとっては、切実なる人生の問題。そこには、痛みや悲しみを抱えた生身の人間がいることを、見失ってはなりません。そんな人たちに寄り添い、より良い社会にするために「社会運動」というアクションが起こされます。しかし、なかなか理解や共感が広がらないことも多く、「そんなことをしても、何も変わらない」という無力感を持つ人や、運動に取り組む人をバカにする人もいるのが現状です。

では、より良い社会にするためのアクションを、どう起こせば



Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

いいのか。そのアイディアが、世界の著名人による講演会を開催・配信している非営利団体TEDにて、起業家のデレク・シヴァーズさんから提案され話題となりました。

デレクさんはまず、一人の男性が公園のような場所で、上半身裸になって踊りはじめる映像を流します。周囲は、バカにした視線を彼に注いでいました。そこに二人目に参加したのです。一人目の男性は二人目、つまり最初のフォロワー（後に続く者、支援・支持する人）に声を掛け、二人はさらに元気よく踊り出しました。そして三人目が入ってきます。三人はもう「集団」であり、「みんな」です。さらに数人加わり、ますます勢いづいていき、そこにムーブメント（動き・流れ）が起こる。多くの人が加わるほどに、笑われたり、後ろ指をさされるリスクは小さくなる。一旦大きな流れができる。逆らうことが難しくなる。加わらない方がかえってバカにされるからと、みんな集団に入ろうとする。社会運動も、このような形で起こることができる。社会を変えることができるのだとデレクさんは言い、最後にこう締めくくりました。「確かに、最初はその裸の男性でした。」



彼には、大きな功績があります。しかしリーダーだけでなく、フォロワーもまた重要なのです。踊りは始めた一人のバカをリーダーに変えたのは、最初のフォロワーだからです。スゴイことをしている孤独なバカを見つけたら、立ち上がり参加する勇氣を持ってください」と。

私たちの社会をより良いものにするためには、アクションを起こすリーダーだけでなく、後に続くフォロワーもまた同じくらい重要なのだという指摘です。後に続く人こそが「バカにされていた人をリーダー」に変え、大きなムーブメントを起すのだと。この考え方は、因だけでなく縁をも重視する、仏教の「縁起の思想」に通じます。考えてみれば、近頃はインターネットやSNSの普及で、誰もが気軽に意見を発信することができるようになりました。そして小さな声に共感や賛同が集まると、大きな影響力を持つようにもなりました。フォロワーの重要性和可能性がますます高まっている時代ですから、この提案が共感されるのも理解できます。

さて、一見ポジティブなデレクさんの指摘。しかし私には、「あなたは一切、誰をフォローしているのですか」という問いのように聞こえました。より良い社会を作ろうとする人なのか。それとも、彼らをバカにする人なのか。それとも、「どうせ、何も変わらない」という無関心の立場なのか…。関心があるがなかるうが、私た

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

ちの行動はそれぞれの立場のフォロワーとなり、社会を作り上げていく。それだけの責任があることを自覚しているのかと、問われたように感じたのです。

あるテレビ局に、大人気の討論番組がありました。「そこまで言っているのか」と思うような、司会者の過激な物言いが売りのこの番組。一つのテーマに二つの立場からゲストが参加するのですが、司会者は片方の意見を、一方的な言葉でバツサリと斬り捨てます。そこに、番組の進行をコントロールするプロデューサーが、司会者にもっと厳しく責め立てるよう指示を出しました。笑顔で「いけ！いけ！いけ！」と。過激になるほどに、視聴率が上がることを知っているから…。

これは、日本の番組ではありません。『そしてテレビは戦争』をおおったロシアのウクライナ2年の記録』（NHKスペシャル 2016年放送）というドキュメンタリーで紹介された、ロシアの番組です。司会者に責め立てられたのは、ウクライナの人たち。プーチン政権の強い統制下に置かれたロシアのテレビ局は、政権の意向



に沿うようにと、何年も前からウクライナを非難する報道を続けていました。正義（ロシア）と悪（ウクライナ）の対立が単純化され、過激になるほど人気が出る。そして人気が出るほど、過激さはエスカレートしていったのです。

その対立は、2014年のロシア軍によるウクライナ南部クリミア半島への軍事侵攻に続いていきます。それを機にウクライナでも、テレビは反ロシア、愛国主義一色の報道に染まります。そこにインターネットやSNSが拍車をかけました。戦闘が始まると、ネット上には残酷な映像が溢れかえり、それをテレビ局が自国に都合良く使う。テレビが世論を変え、世論がテレビをおおることで、対立は激化していったのです。

東京外国語大学名誉教授で哲学者の西谷修さんは、「全体主義的の体制が、弾圧だけでできるわけではない。必ず多くの人がそれを支えている」（NHK 100分de名著『戦争論』）と言われます。戦争や弾圧は、一人の独裁者がするのではない。必ずフォロワーによって支えられているのだと。そう考えると、今年二月から行われているロシアのウクライナ侵攻には、このドキュメンタリーのタイトルそのままに、テレビが「戦争」をあり、テレビをフォローした人たちがまた「戦争」をおおった。そんな背景があったと言えるのではないのでしょうか。↓

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

でも、このような討論番組は、日本でもよく見かけるものだと思います。分かります、白か黒かの二つに分けて対立をおおる。不祥事や事件を起こしたら、「こいつが黒だ」と徹底的に叩く。過激になるほど、エンターテイメント性は高まり、視聴率も上がる。いつしか政治家も、単純な言葉で対立を煽る物言いが増えました。そちらの方が、メディアに取り上げられ、人々のウケもいいからです。

しかし冷静に考えれば、人間とはそんなに単純なものではありません。白の中に黒も交じっている。国の中にも色々な意見があり、それぞれの人間が様々な事情を抱えて生きている。一人一人の中にも、グレーな部分はたくさんあります。それが「生身の人間」ではないですか。



中村 哲

完全な正義や、完全な悪はわかりやすい。でも、自分を一面だけで決めつけられたら、誰しも嫌でしょう。にもかかわらず、単純化、決めつけ、過激な対立を支持する人が増えている。だから、テレビもそんな番組を作る。テレビが世論を変え、世論がテレビを煽っていく。これは、ロシアとウクライナだけで起こって



いることではありません。私たちの身近で起こっている事実なので
す。

戦乱のアフガニスタンで、医療支援のみならず食糧不足解消のため
に用水路を掘り、復興に生涯をかけた医師の中村哲さんは、「善
悪も、美しさと醜さも一緒に抱えて人間は生きている」と語ってお
られたそうです。中村医師の言葉には、「生身の人間」が感じられ
ます。美しい自然に感動する心を持ち、優しい一面を見せながら、
状況によっては残酷なふるまいをしかねない。そんな生身の人間と
戦渦の混乱を通して接する中で、「自分もまた、その人間の一人な
のだ」という自覚が滲むような言葉です。

それは親鸞聖人の姿勢と通じるように、私には思えるのです。親
鸞聖人は、私たちの行いは「雑毒の善」（浄土文類聚鈔）であり、真実
の行いではないと言われています。まさに、毒が雑じっている。白
の中に黒が雑じり、優しさと同時に残酷さも持ち合わせているのが
人間なのだ。過信してはならないと、戒めておられます。

「生身の人間」である私たちは、複雑なのです。だからこそ、我
が身を振り返り、熟慮し、相手の立場を思う営みが求められるので
しょう。それを忘れ、白か黒かの二つに単純化する時、私たちは優
しいままに、正義の名のもとに、過激で残酷なふるまいを支持する
ことにもなるのです。

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

ウクライナ侵攻に反対したことで母国を追われ、家族と共に出国
したロシア人の社会学者は、「私はプーチンに投票はしていませ
んが、長い間無関心で見えて見ぬ振りをしてきた。だから、そのこと
を謝らなければならない」と語っていました。（NHKスペシャル『ウクラ
イナ危機 市民たちの30年』無関心もまた、一つのアクションであり、フ
オローだったのだと…。

関心があるがなかりが、私たちは誰かを支持している。私た
ちは、そのことにもっと自覚的にならねばなりません。それが戦争
に、つながりかねないというこ
とも。

では私は、誰をフォローして
いるのでしょうか。今、この私
が問われています。■



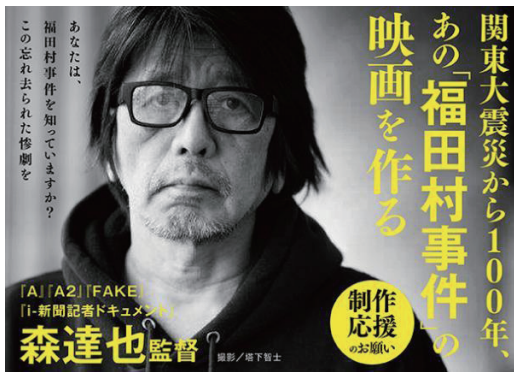

極楽寺
ホームページ
極楽寺.comで
検索を
レイアウトを
リニューアル
しました

今年もやっぱり交流戦でつまづいたカープ。前半戦を何とか二位で終えましたが、
五位までのゲーム差は少し。ヘタすると最下位になる可能性も…。さあ、後半戦
はどうなるのでしょうか。期待よりも不安ばかり感じている今日この頃です。



極楽寺にも来られた 森達也監督 初の劇映画作品が始動！

2017年の彼岸会法要のご講師として極楽寺に来られた、作家・映画監督の森達也さんが監督をつとめる『福田村事件 (タイトルは仮)』の制作が始動しました。ドキュメンタリーを撮ってきた森監督にとって、初の劇映画作品となります。「福田村事件」とは、関東大震災から五日後、千葉の福田村で九人の日本人が殺された事件です。震災直後から飛び交ったデマ——朝鮮人が武器を持って襲ってくる、井戸に毒を入れた、放火している等々——を信じた人々が自警団を結成し、朝鮮人の虐殺が起りました（この機に復讐されるという後ろめたさがあったのでしょうか）。それは東京近郊にも飛び火し、香川からの行商団が襲われたのです。讃岐弁を朝鮮語と



間違えられた為…。コロナによる感染者への差別や自粛警察、他県ナンバー狩りにもみられるように、不安や過剰な防衛意識が、人間を過激な行為へと駆り立てていく。しかしそれは、他人事ではないのでしょうか。なぜなら、福田村事件の加害者は、我々と変わることのない同じ普通の人だったからです。制作側のコメントにも「普通に生き、普通に大切な人を守りたいと思っていた人が、ある日、殺す側と殺される側に分かれる。その日常を、その過程を丁寧に描きたいと思う」とあり

ります。これを読んで、親鸞聖人の「さるべき業縁のもよほさば、いかなるふるまひをもすべし（縁にふれれば、どんなことをもしでかすのが私なのだ）」という言葉が、思い出されました。

とはいえ、このようなテーマの映画ですから、出資する企業も見つからないのが現状。その為、制作費支援のクラウドファンディングが立ち上げられています。詳しくは、【福田村事件 森達也】で検索してください。

森監督には、いずれまた、ご講師として来ていただくお約束をしています。■

お線香の燃え残りに、お悩みの方。 お線香がよく燃える「香炉の灰」ございます！

「お仏壇にお供えする線香が、最後まで燃えない…」とお悩みの方。それは、香炉の灰に原因があります。特に市販の新しい灰は、燃えにくいのです。そこで極楽寺では、お線香がよく燃える「香炉の灰」を用意しました。必要な方は、気軽にお申し出ください。もちろん、代金などいただきません。



極楽寺 Tシャツ 好評受付中！

一枚 1,000 円のご懇志でお渡しします。
受け付けてから発注しますので、少し時間がかかります。

極楽寺掲示伝道
人の想いは
見えるもの
ではなく
気づくものでした



9月の言葉

スペインの思想家オルテガ・イ・ガセットが、「お坊ちゃんとは、どんな存在か」を定義しています。「お坊ちゃん」とは、家庭内でふるまいを外でも行うことができる信じている人間のことを言うのだと。

家庭とは、外では失礼で恥ずかしいとされる行為も、大目に見てもらえる特別な場所です。「母ちゃん、何で起してくれなかったんだ！」と逆切れしたり、靴下を脱ぎ散らかし、ゴミを放りっぱなしにしても、結局は許されるのが家庭というもの。しかしそれは、外では通用しません。にも関わらず、外でも同じくふるまおうとする人を、「お坊ちゃん」主義とオルテガは言うのです。そしてそれは、他の国や文化に対する態度でも同様だと指摘します。自分の価値観のみを正しいと信じるのは、成熟しないグロテスクな有り方である



Monthly Words - Monthly Words - Monthly Words - Monthly Words - Monthly Words - Monthly Words - Monthly Words

確かに、自分の常識や正義が、他者にも通用するという思い込みは危険です。それぞれの背景、歴史は違うのにも関わらず、それを踏みじり、一方的に価値観を押し付けることになるのですから。相手の背景に思いを馳せる。そんな想像力や共感力を持った時、人は成熟した大人に成長するのでしょうか。

「ロバと老夫婦」というお話があります。

あるところに、ロバを連れた老夫婦が歩いていました。おじいさんはロバに乗り、おばあさんは徒歩でした。

すると、通りがかりの人から「おばあ

さんが、かわいいそうだ」と言われたのです。そこでおばあさんをロバに乗せ、おじいさんは歩くことにしました。

すると別の人から「何て女だ。けしからん！」と怒られたのです。そこで今度は、二人でロバに乗ると、今度は別の人から「ロバがかわいいそうだ」と言われてしまいました。

仕方がなく、二人とも降りて歩くと、また別の人から「あいつらは、ロバの使い方も知らないのか！」とバカにされたというお話です。

おじいさんとおばあさんとロバを見て、周りの人間が色んなことを言います。「おばあさんがかわいいそうだ」という人は、優しい



人なのかもしれません。でも、おじいさんの足が悪いのではないか、疲れているのではないかという想像力がない。男尊女卑という考えに凝り固まっている人もいれば、動物愛護の人もいる。「ロバの使用方も知らないのか！」という人は、経済合理性の考えが強い人かもしれません。世の中には、いろんな考え方の人がいます。でも共通しているのは、みんな自分の考えが正しいと思い込んでいて、相手の事情を考えることも共感することもない「お坊ちゃん」主義でものを言っているということです。

まさに、今の私たちの社会そのままではないですか。SNSで炎上する。みんなが寄ってたかって叩く。相手の事情を考える想像力も共感力もなく、ただ自分の立場と価値観からものを言う行為は、まさにオルテガの指摘する未成熟でグロテスクなあり方です。そんな



原作は、ナイジェリアの風刺漫画家 EB Asukwo の四コマ漫画。「全ての人を納得させる難しさ」という題名で、Facebook にも投稿され、話題になりました。

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

状況が広がっているから、どこで何を言われるかわからないと、みんなビクビクしているのではないですか。いちいち言われる通りにする老夫婦の気持ちも、わかるような気がします。

また、「お坊ちゃん」主義は、自分に向けられる温かな想いをも見失わせてしまいます。家庭内において許されることは、私に向けられた家族の温かな想いによるもの。それを、当たり前のように享受しているうちは、気づくこともできないでしょう。人の想いは、見えるものではありません。こちらが、気づく身に育てられなければ、わからないのです。

仏様は、「如実知見」ありのままにものを見るという智慧を持たれた方だと言われます。逆に考えると、仏様ではない私たち凡夫は、ありのままにものを見ることができない存在だということでもあります。つまり私たちはどこまでも、「お坊ちゃん」主義から、逃れられないのだということなのでしょう。

だからといって、開き直ればいいということではありません。自分が見ている景色は、自分の価値観という色メガネを通したものでしかないという謙虚な自覚を持ち、安易に決めつけず、問い直し、見つめ直していく。その営みの中で、想像力や共感力が育てられ、成熟した大人になるのです。

オルテガは、こうも言います。「賢者は、自分がもう少しで愚者になり下がろうとしている危険をたえず感じている。／ところが愚者は自分を疑うことをしない。彼は自分がきわめて分別に富む人間だと考えている」(『大衆の反逆』)。つまりは、「自分は成熟した大人だ」という思い込みもまた、「お坊ちゃん」主義なのだ。自分のものの見方に、たえず危険を感じているからこそ、賢者足りうるのだと。親鸞聖人という方は、一生を通じて「私は凡夫であり、愚者である」という立場を崩されることはありませんでした。それは謙遜で言われているわけではありません。自分の弱さや悲しさと、真摯に向き合い続けられた姿であり、オルテガの言う「賢者」の姿勢そのものです。だからこそ、他者の弱さや悲しさ、切なさに寄り添える。親鸞聖人のものの見方が、深く豊かな理由はここにあるのでしよう。

先日、ご門徒の方から「亡くなったおばあちゃんの荷物を整理していたら、こんなものが出てきました」と、私の子どもの頃の写真をいただきました。裏には、「極楽寺坊ちゃん一才」という文字がありました。昔は、そう呼ばれるのがあまり好きではなかったのですが、この写真を大切に保管していたおばあちゃんの顔を思い出すと、温かな想いの中に包まれていたことを、しみじみと気づかされまし

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

物でお布施 mono de OFUSE

書き損じはがき・未使用切手・CD・DVD
未使用テレフォンカード・ゲームソフト
ゲーム機器・商品券やビール券など金券 など。

未使用タオルや

バザー品となるようなものも、
受け付けています！

プルトップも、
集めています！



本堂正面から入って右手奥に、
回収箱を用意しています。

た。
そんな想いを、私はどれだけ受け止めてきたのでしょうか。そして、周りの人の想いをどれだけ想像し、また共感できているのでしょうか。六十歳を手前にして、未だに成熟できない「お坊ちゃん」主義の生き方を、自覚することもなく繰り返しているのではないかと、オルテガや親鸞聖人から問いかけられています。どうやら自分のあり方に、たえず危険を感じる必要がありそうです。■



お寺からの お願い

のうこつどう さんばい
納骨堂の参拝についてのお願いです。くれぐれも火の後始末をお願いします。特に、
続けてお参りされる場合、ロウソクの火を「次の人のために」と消さないままにさ
れるところに落とし穴が！結局つけ**ばな**け**きけん**放しで危険なことに…。次の方に「ロウソク
の火を消して下さいね」と、一言かけていただくと、助かります。



住職の つぶやき Jyussyoku's Tweet

□「全国書店員が選んだいちばん売りたい本！」書店員の投票だけで選ぶ**ほんやたいしょう**本屋大賞の2022年国内小説部門で、『同志少女よ、敵を撃て』（逢坂冬馬 著）が大賞を受賞しました。第二次大戦時、ナチスドイツの侵攻によって始まった独ソ戦。多くの戦死者を出したソ連では、100万人を超える女性たちが看護師や軍医だけでなく、世界でも稀な最前線での兵士として従軍しました。主人公は、家族や仲間をドイツ兵に殺され、その復讐から女性狙撃兵となった少女セラフィマ。エンターテインメント性の高さ、構成の見事さは勿論、主人公の怒り、逡巡、慟哭、愛情を通して、戦争の「人間を悪魔にしていく性質」や、殺戮の場から日常へ帰帰することの困難さが描かれています。いやあ、素晴らしかった！□この作品は、ジャーナリストで作家のスヴェトラナ・アレクシェービッチの『戦争は女の顔をしていない』というルポルタージュに大きな影響を受けています。アレクシェービッチが同じ女性として、従軍した人々に寄り添い、500人以上から生身の戦争体験を聞き取りまとめたものです。何と昨年、日本でマンガ化され話題となりました。彼女はその後も、アフガン派兵から心身に傷を負い帰ってきた兵士たち、原発事故やソ連崩壊で苦しんだ名もなき人々の声を丹念に掘り起こし、それらの作品は「苦難と勇気の記念碑」と評価されノーベル文学賞を受賞したのです。□そんな彼女の原体験は、幼い頃に聞いたウクライナに住む祖母の一言でした。当時学校では「ソ連兵は英雄、ドイツ兵は憎むべき敵」と教えられていたにもかかわらず、彼女のおばあさんは「どちらもかわいそうだった」と語りました。「ドイツ兵にも色々な人がいたの。子どもたちにパンを配った人もいた」と。独ソ戦の戦場となったウクライナ。夫や親戚を失ったにもかかわらず、敵味方を超えて人間を見ていた。そして普通の人々が、戦争によって狂気に変えられていく様も…。おばあさんの一言が、後のノーベル賞作家を育てたのです。そう考えると、戦争に無力さを感じる私たちにも、何かできることがある気もしてきます。□マンガ版の帯には、『機動戦士ガンダム』の監督・富野由悠季さんの「この原作をマンガ化しようと考えた作家がいるとは想像しなかった。瞠目する」という檄文が添えられています。いやはや、ホントにそうだと思います。目を背けたくなるような、生身の事実が突きつけられるこの本を、よくもまあマンガにすることは…。しかし、「生身の人間」という視点から、戦争を見ていくことの大切さを教えられる本です。これもまた、素晴らしい！今回は、お薦めの本の紹介でした。（住職）



次回法座の予定

納骨堂追悼法要 9月23日 (金) 秋分の日

秋の永代経法要 11月16日 (水) 17日 (木)

御講師 渡邊如心 師 (福岡 信覚寺住職)